

生まれたと伝えられています。

そのころは、奈良に都があつて仏教が栄え、大きなお寺のお坊さんは、国の政治に大きなかかわりを持つようになっていました。しかし、そうした時でも、一般の人々の生活は貧しく、水害や冷害などの災害も多く、てんねんとうなどの病気が大発生する年もあったのです。

このような時代に徳一は生まれ、お坊さんになろうとして、奈良にある興福寺の修円こうふくという立派なお坊さんについて修業し、さらに東大寺で仏教の教えを深く学びました。若い徳一は仏教のきびしいおきてを守り、中国語で書かれた仏教の書物をいっしょに勉強したのです。



現在の東大寺勸学院

### (3) 徳一の考え方と決意

徳一は勉強するにつれて、仏教で教えてることとまわりのお坊さんたちの生活との間に大きなちがいがあるのに気がつきました。お坊さんの中には、苦しんでいる人たちのために仏教を教えさとすことをしないで、自分の利益りえきをはかり、ぜいたくな生活を送っている者もいました。また、貴族きぞくや皇族こうぞくにとりいって出世しようとするお坊さんもありました。

徳一は、こんなお坊さんの姿を見るたびに怒りと疑問ぎもんを感じるのでした。

ちょうどそのころ、遣唐船けんとう（日本から昔の中国に送りつかわされた船）に乗って、最澄や空海が新しい仏教の書物をもつ